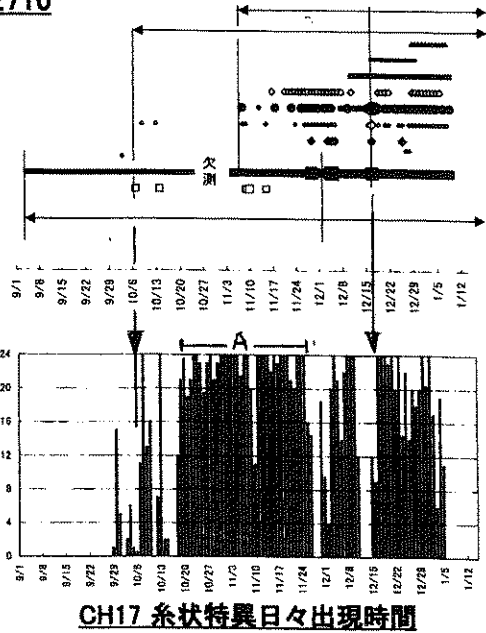


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No1778 長期継続前兆続報 現況報告 直前特異か？ 認識間違いか？

No.2710



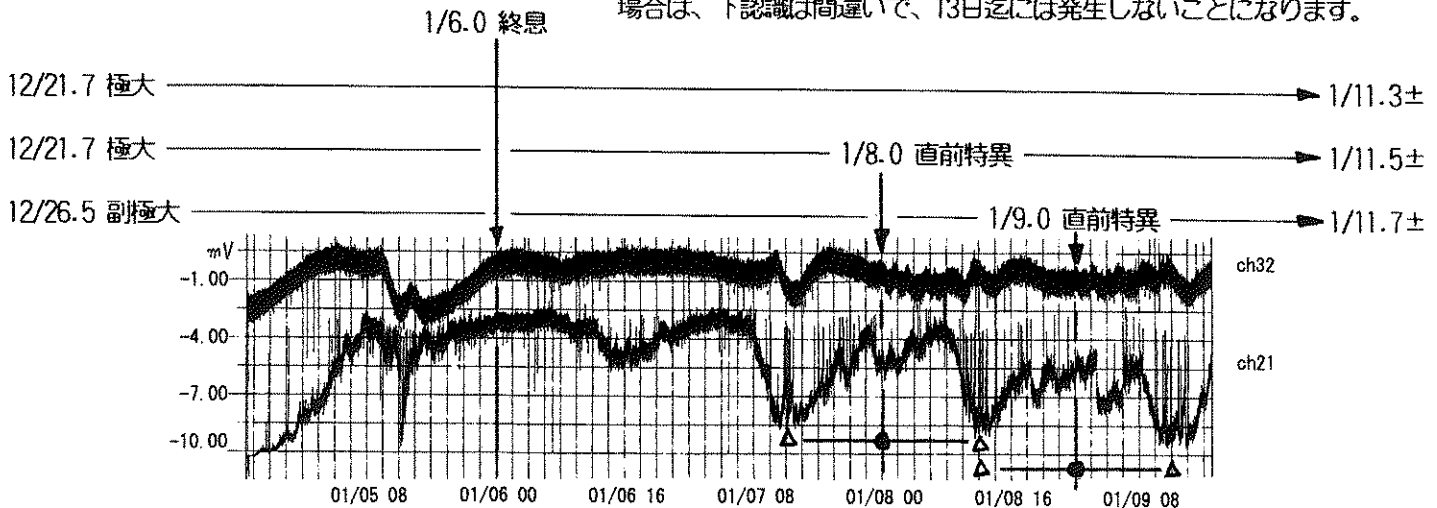
CH17 系状特異日々出現時間

No1778前兆は、現在第12ステージ認識。前情報で報告のとおり、01月06日00時頃に静穏化し、静穏期に入った場合は、01月11日±発生の可能性が示唆されています。

前情報で報告致しましたが、No1778前兆関連として、最後まで残った前兆は、CH17とCH21でした。しかし、No2710前兆の影響を受けている可能性もあることを記しました。(No2710前兆は公開実験参加の皆様へ配信している実験観測情報では既に報告しておりますが、HPでは公開しておりません。ご了承下さい) CH21はNo2710前兆の影響局が無いため、No2710前兆は出現できません。そこでCH17の糸状状態変化の日々の出現時間を調査しグラフ化し、No2710前兆と時間軸を合わせて表示させてみました。左図参照。

CH17は、伊豆局、新居浜局も影響となり、No1778前兆も確実に出現しておりますが、No1778前兆の変化と調和しない特異状態出現変化が見えました。左図でCH17の糸状特異が長時間継続出現したした時期とNo2710の先行特異初現がほぼ合っています。CH17のA部はNo1778関連で出現した糸状特異と思われるが、12/17のNo2710前兆の極大時期から再びCH17の糸状特異が顕著化して現在に続いています。このことから、CH17の糸状特異変化はNo1778前兆だけではないことが明らかで、CH21の変化が重要であることが判りました。そのCH21ですが、1/6 00時頃より静穏直線基線を記録した後、下波形の通り3回大きく電圧値が下がり特異状態を記録。現在復帰中。

この特異状態を下の様に仮に認識しますと、01月11日or12日発生の可能性が否定できません。しかし、11日夕刻段階でCH21に特異が継続していた場合は、下認識は間違いで、13日迄には発生しないこととなります。



12/21.7極大 — 12/26.5副極大 (認識が正しい場合) Tmap:Tps=4.2:1⇒1/10.9±発生  
Tmap:Tps=4.3:1⇒1/11.3±発生

- ◆推定領域: 右図 太線領域=大枠推定域
- ※斜線域=可能性が考え易い推定域 (石川・福井・岐阜等)  
(影響局認識の場合は東北々可能性低い)
- ◆推定規模: M7.8±0.5
- ◆推定時期: 1月11日or12日  
(最大誤差=1月11日~1月13日)  
(※但し1/11段階で前兆継続出現の場合は無効  
その後の前兆変化を鑑み再考し、続報予定)
- ◇推定地震種: 震源が浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: AM09:00±1 (or PM6:00±3) 但し前震発生の場合は無効。
- ※解析間違いで推定内容と異なる地震発生の場合は深くお詫び申し上げます。

CH21の特異変化と同期してCH32に振動型BFが出現しました。CH32もNo2710前兆の影響を受けない観測装置と認識されます。1/11夕刻段階でCH21が静穏化していない場合は、1/11or12に極大が出現し、発生はまだ先となる可能性となります。現在迄の変化を都合良く解釈しているだけなのか、正しく認識できているか、非常に難しい状況です。観測を続け、前兆変化を正しく理解できる様に努力を続けたいと思います。